

営農型発電施設が稼働

府中 非常時は電源にも



太陽光パネルの下でシキミを栽培する
発電施設

耕作放棄地を使った営農型の太陽光発電施設が、府中市河佐町で稼働している。非常時に電源として使えるコンセントを備え、脱炭素化と地域貢献を目指す。太陽光発

電所開発などのエイコーエナジオ(大阪市)が、地元出身の社員の土地を活用した。発電施設は約600平方メートル。パネル189枚が並び、発電した全量を中

国電力ネットワークが買い取る。災害などによる停電時は、装置の一部が非常用電源への出力に切り替わり、コンセントの利用が可能になる。コンセントは住民向けに開放するという。昨年12月から運転を始めた。

パネルの下にシキミ200株を植え、道の駅やJAなどを通じた販売を予定する。生育状況を確認するため、肥料の種類や量を変えて栽培し、4年後の出荷を見込む。



停電時に使用可能になるコンセントの説明をする
若林さん

土地はエイコー社プロジェクトマネージャーの若林明美さん(43)が府中市篠根町IIが所有する。シキミの管理は若林さんが設立した地元の営農会社が担い、栽培経費としてエイコー社が支援金を出す。

たな活用を両立させた。シキミの売り上げが安定すれば、農家の収入源になる」と意気込んでいる。(佐々木裕介)